

津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2024. 5. 8 NO 8

『ひっくりカエル』が大切です

6年生を対象に毎年、全国学力学習状況調査を行います。この調査では学力だけではなく、児童質問紙では生活・興味などについても調査します。自己肯定感に関する項目ではどこの学校も低い結果となっており、各学校において自己肯定感を高めるための取組を行っています。何年か前の

内閣府の調査では「自分に満足しているか」の問いに肯定的な回答をしている

児童の割合は日本で45%、アメリカでは86%という結果が出ていました。私自信も自己肯定感が低く、他者と比較して“自分はだめだあ”とすぐに思ってしまいます。かつて教育相談に携わっている大先輩から「カウンセリングをする時は相手の見ている角度ではない見方もあるということに気づいてもらえるようにしなければならない」と教えてもらいました。最近、発刊された本で、知人から紹介された本に『ひっくりカエル』作 安部博志 があります。この本は周囲から理解されずに怒られることが多く、自己肯定感の低い子が多い発達障がいの子に対して「もっと自分を好きになって自信を持ってほしい」との願いをこめて書かれた本です。例えば「泣き虫」は「心が優しい」に、「飽き性」は「頭の切り替えが早い」という風に…。この本は心理学でいう「リフレーミング」という手法が取り入れられていて大人も子ども、心がほっとする言葉が溢れています。毎日、ネガティブな言葉とニュースが目飛び込んできますが、それらをリフレーミングしていくと自分のこともまわりのことも好きになるかもしれません。(画像は小学館 HP より) 私はあまり絵本を購入しませんがこの絵本はすぐに購入しました。



登校してくる児童から…



私が毎朝、坂を上ったところで子どもたちに挨拶をしていることは以前にも書きましたが、その際、1日に1人は近づいてきて何かを渡してくれます。葉っぱや草花、時には道に落ちていたハンカチやキーホルダーなど…。でも、その小さなプレゼントの中には「届けよう」「渡したい」という大きな気持ちがたくさん含まれているのだと捉え、最大の感謝の気持ちを伝えながら毎回、受け取っています。

先日、ある女の子が黙って近づいてきてメモ用紙の折りたたんだものを渡してくれました。いつもようにお礼を言ってそのメモを預かり、校長室に戻ってから折りたたまれた手紙を開いてみました。たくさんのキャラクターが書いてあり、色も丁寧に塗ってありました。そして真ん中に「がんばれ」と書いてありました。多分、直接、私に伝えることははずかしくてできなかったのでしょう。その子の思いがしっかりと伝わってきました。私は、そういう子たちの思いをしっかりと受けとめながら、明日からも元気に挨拶をしていかなければならないと強く心に決めました。